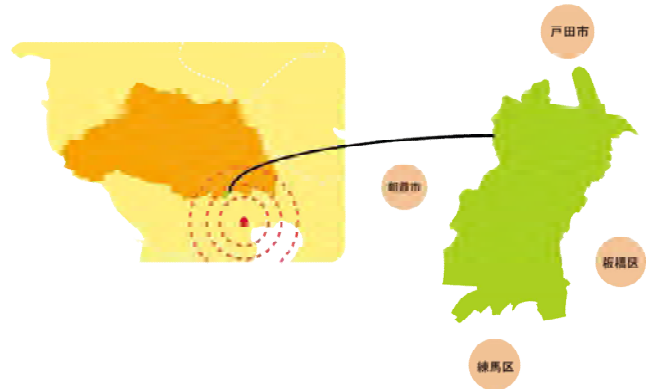


1 市の概要

(1) 市の地理・地勢

本市は、埼玉県の南東部にあり、西側に朝霞市、北側に荒川を挟んで戸田市と境を接しています。また、南側は東京都練馬区、東側は板橋区と隣接し、都心から20キロメートル圏内に位置しています。



武蔵野の面影を残した豊かな自然に恵まれており、和光樹林公園の広大な緑、荒川の雄大な流れ、市内各所で湧き水や緑豊かな斜面林があり、都市生活に彩りを加え、市民の心を潤しています。

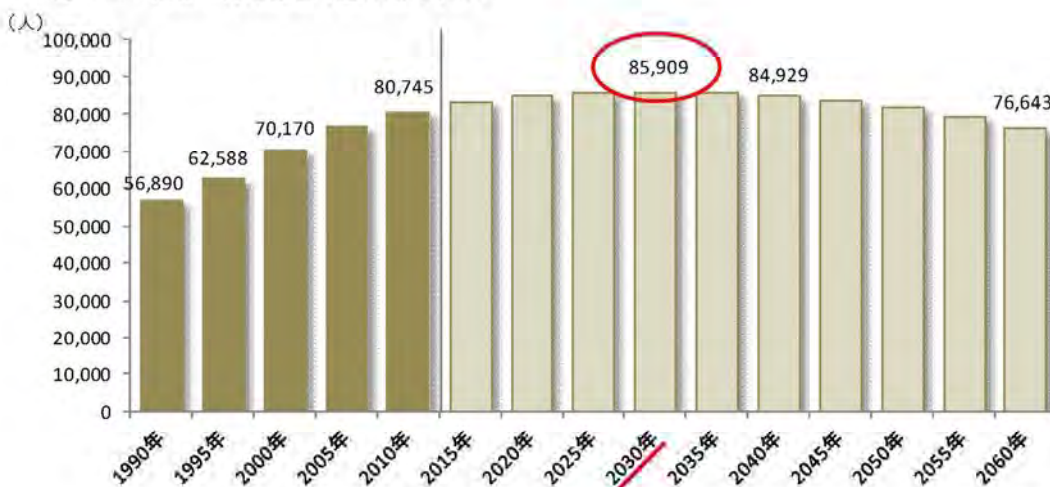
(2) 人口

都心に近い距離にあることから、ベッドタウンとして注目を集め、人口は年々増加傾向にあります。

現在は、15歳～64歳の生産年齢人口率が71.6%と高い（平成22年国勢調査全国4位）ことも特徴で、本市は若く元気なまちと言えます。

また、将来の人口推計は、2030年をピークに減少に転じる見込みであり、2060年には、7万6,643人と、2010年と比較し、5.1%減少すると推計されています（国立社会保障・人口問題研究所推計）。

<総人口の推移と将来推計(社人研準拠)>



資料：国勢調査「日本の地域別将来推計人口(平成25年(2013)年3月推計)」(社人研推計)

(3) 交通

本市は、古くから交通の要衝として発展してきました。江戸時代には、五街道に準ずる地位を与えられていた川越街道に白子宿がおかれ、宿場町として賑わいました。

現在は、東武東上線や東京メトロ有楽町線・副都心線が和光市駅を通過しているほか、東急東横線、横浜高速鉄道みなとみらい線と相互直通運転を行っており、横浜などつながっています。

また、自動車道については、東京外環自動車道の和光北ICと和光ICの2か所のICが市内にあり、その先には関越自動車道、東北自動車道、常磐自動車道につながっています。

このように、首都圏の鉄道・道路交通の幹線が市内を縦横に走り、交通至便であることが、本市の大きな特徴のひとつとなっています。



(4) 産業・観光

本市は、和光市駅周辺を中心に商業基盤整備が進み、活力あるまちづくりが進展しています。市内には、国内有数の自動車会社や東京北部郵便局などの企業があり、地域経済の活性化につながっています。また、理化学研究所をはじめ、司法研修所、国立保健医療科学院、税務大学校、裁判所職員総合研修所などの国の機関等もあり、海外及び国内トップクラスの英知が集まっています。

観光については、市内最大のイベント「和光市民まつり」及び「ニッポン全国鍋グランプリ」に毎年多くの人を訪れます。特に「ニッポン全国鍋グランプリ」には、市内や周辺地域の方のみならず、全国各地から観光客が訪れます。

2 推進方針策定の背景と目的

近年、財政的な課題や全国的な少子高齢化を背景に、地域の魅力を高め、活力を維持する地方創生の重要性が増しています。また、まちの活力を維持するための定住人口の獲得や企業誘致の競争が激しさを増す中、創意工夫によって魅力あふれるまちづくりを進め、健全な地域経営を進めることが求められています。

魅力あふれるまちとなるためには、都市基盤整備や福祉サービスなどを適切に実施し、安全で快適なまちづくりを進めていくことが必要です。一方で、市に愛着を持ち、まちづくりを「自分事」として捉え、積極的に参画する「関与人口」を増やすことが欠かせません。すなわち、たくさんの市民が「和光市が好き」、「和光市に住み続けたい」と実感し、市民であることに対する誇りを持ち、互いに市の魅力を共感できることが必要です。また、市の魅力が市外に認知され、「行ってみたい」、「住んでみたい」と憧れられるまちになることも重要です。

本方針は、第四次和光市総合振興計画に掲げる「施策74 積極的な広報活動と情報共有化の推進」を実現するため、地域の魅力を市内外へ効果的に訴求し、市民が「愛着」や「誇り」を持てるように、また市外の人が本市に「訪れたい」、「住みたい」と思えるように取組を進め、集約したヒト・モノ・情報などの資源を活用することで、持続的・安定的な都市経営を行うことを目的とします。

3 推進方針の位置付け

